

広報
vol.174

くわな

2019

6

令和元年

特集
緑と夢が広がる長島

02 本物力の一步先へ『緑と夢が広がる長島』	14 くわなフォトレポ！
06 ちょこ知りくわな	16 おしえてドクター・すこやか情報局
08 伸びゆくまち・桑名 第16弾 まちづくり 拠点施設の取り組み	18 地域包括ケアシステム
10 桑名水郷花火大会	19 くわなで子育て
12 大河ドラマ「いだてん」トークツアーin三重県桑名市	20 図書館案内・施設案内
13 三重県内男女共同参画連携映画祭 2019 上映会	22 くわな暮らしの情報BOX
	30 イベントカレンダー

【写真】ナガシマファームからみた遊園地

ここに
革新のドラマあり

◆本物力の一步先へ◆



Number
06

ナガシマリゾートが、遊園地の横に農園を作るわけ

緑と夢が広がる長島

絶叫マシンの北側で育つ、約2,000本のオリーブの木。木曾川と長良川に囲まれた長島で、遊園地・プール・ホテル・温泉などを展開する「長島観光開発株式会社」が、農業リゾートへの挑戦を始めています。

長島に湧いた
夢の温泉

昭和38年8月。長島の地から60余°Cの熱湯が噴き出しました。温泉湧出からさかのぼると5年。大谷伊佐氏（のちの長島観光開発(株)初代常務）は富山から長島南端の松蔭にやってきて、天然ガスの採掘を始めました。地名どおり堤防に松の大木が1000本以上並び、桜や紅葉を楽しむ客で賑わう土地です。しかし採掘開始の翌年に見舞われた伊勢湾台風と続く第二室戸台風で、一帯の木々は根こそぎ流され、大谷氏が掘った井戸も打撃を受け4本が次々失敗。数億円の私財を使い果たした大谷氏は、絶望のふちに立たされました。

しかし地元の人励ましも



3



4



5



温泉が湧いた噂に着工前から人が集まるので急ぎよ無料の簡易浴場が設けられました

①遊園地北側のオリーブ畑といちごの温室。②温泉が自噴した井戸。③大谷伊佐初代常務(左)と服部知祥 初代社長(右)(昭和41年)。④昭和39年、開業時の円形大浴場。中央には音楽と連動するカラー噴水、周囲に熱帯樹と熱帯魚を配置。⑤昭和41年、開業当時の遊園地全景。



今でも地下から豊富な温泉が湧き続けています

長島観光開発(株)
水野正信 代表取締役社長

長島観光開発(株) (ナガシマリゾート)

住/長島町浦安333
☎/45-1111(代)
<http://www.nagashima-onsen.co.jp/>

遊園地(ナガシマスパークランド)、プール、ホテル群、温泉、なばなの里など複合リゾート施設を展開。



あつて気持ちを立て直し、服部知祥氏(初代社長)と共に「天然温泉開発」へ舵を切りまします。これまでの採掘で約30℃の湯が出ていたからです。長島の観光開発はかねてから政財界の望みでもありました。服部氏は全国の財界人に温泉レジャー施設への融資を募り、その間に大谷氏は長男の僖美治氏(現会長)や若者数名と第5の井戸を掘り進めました。ゴールが見えず諦めかけたとき、待望の温泉が湧き出したのです。湯量は次第に増え、1日1万tに達しました。

時は高度成長期。名神高速道路開通の年で、東京五輪と東海道新幹線開通の前年です。経済界の重鎮らを役員に迎え、長島観光開発(株)を設立。好機を逃すまいと、8カ月間の突貫工事を行いました。3万3千㎡の敷地に2000人収容の円形大浴場や3000人収容の大広間ができ、翌月にホテルも完成。想定数以上の人たちが押し寄せました。温泉と一緒に楽しめるよう、昭和41年に遊園地「ナガシマスパークランド」と「シーサイドプール」も開業しました。



2

①手摘みの実から、酸度が低い高品質オイルが採れます。②芳潤な品種「草姫」を楽しむイチゴ狩りは12月～5月上旬。③ジュニア・サミットでのオリーブ記念植樹。④平成31年3月デビュー、木と鉄製のコースター「白鯨」。⑤温泉は「湯あみの島」として17種の風呂がそろいう大スケールに。



1



5



4



3

進化するリゾートが 次に見据える「農業」

ナガシマリゾートの変遷は、昭和・平成史を色濃く映します。昭和45年の大阪万博でレジャーが大型化した時代には、ナガシマにポーリング場が誕生。旅行人気が高まった昭和53年、「ジャンボ海水プール」と、コースターブームのはしりとなる「コークスクリュー」が同時オープン。遊園地ブームに乗っていきます。好景気で豪華レジャーが流行した昭和63年、まだ中京圏では珍しかった高級旅館「ホテル花木」を開業し、ナガシマの知名度を押し上げます。その後もアウトレットモールやイルミネーションなどで客層を広げ、世間が求める娯楽を提供してきました。

平成28年、新たに農業リゾート

トへの挑戦が始まりました。オリーブやイチゴの観光農園を設け、6次産業（生産×加工×販売）をめざします。きっかけは緑化のためリゾート内に植えられていた約300本のオリーブでした。それまで実は放置されていたのですが、試しに収穫して実を絞ったところ、とても新鮮で良質なオリーブオイルがとれました。雨が少なく温暖な長島は、実はオリーブ育成に最適。事業化に向け約2000本のオリーブ苗が植樹され、3年経った現在は、収穫からオリーブオイルへの加工、販売までの流れが始まっています。将来的にはオリーブ収穫体験も検討中です。

また、温室でのイチゴ狩りも2年前から開業しており、立ったまま収穫できるように工夫されています。直売や加工品販売にも取り組み、オリーブオイルとともに地域ブランド化をめざしています。

なぜ農業？

緑に託す創業者の思い

「オリーブは葉の裏が白く、風にそよぐと輝いて見えます。揺れる緑に迎えられ、日常から解放されるリゾートらしい風景にしたい。創業者大谷父子の『長島（ひいては現在の桑名）の観光開発に役立ちたい』という理念のもと、緑化はずっと続いてきたテーマなのです」という現社長の水野正信^{まさのぶ}さん。

大谷氏は「長島を初めて訪れたころのような、緑豊かな景色を取り戻すだけでなく、人々が癒やされる景観を作りたい」と強く思っていました。植え続けられた植物は、開業から6年後には130種、1万5千本を超

えました。エキゾチックなナツメヤシや、ホテル名になっている花木とオリーブは、なかでも積極的に植えられました。開業の9年後に入社した現社長の水野さんは「総務に配属後の初仕事は木を数えることでした。おかげで植物の名に詳しくなりました」と笑います。当初は土壌の悪さに苦戦し、大木を植えて失敗したこともありましたが、

その後も緑化は続き、平成10年に地元農地を花畑にした「なばなの里」を開業、平成17年には地元農家の野菜販売所「花市場」を併設してきました。

水野社長はさらに「緑化や地域共生に加え、今取り組んでいる課題は、日本の素晴らしい伝統文化をどう守っていくかです。私たちが旅館で提供する和食や

和食器、従業員の着物や所作などの裏に、伝統文化の継承に関わる人がたくさんいます。守るためにはコストもかかります。農業参入やジェットコースターの導入など新しい挑戦の一方で、伝統の良さを大事にする方法を模索中です」と未来を見つめています。

早い時流に追われすぎず
時代の大きな変化に
対応していきたいですね



この記事に関するお問い合わせは、
秘書広報課へ
(☎ 24-1492 FAX 24-1119)

伝統文化と緑豊かな景観を大切にしたい

ちよし 知りくわな

取材で分かった意外と知らない「ツウな情報」を、お伝えします

緑と夢が広がる長島

スペインのオリーブの木がやってくる!?

5月中旬に、ナガシマリゾートへ新たにスペインから樹齢1000年のオリーブの木が2本やってきました!

大きさはなんと、胴回り4m!現在、ナガシマファームで育てられているオリーブの木の大きさを考えるととても大きいですね。

この2本は、一般の人にも見てもらえるよう、なばなの里のビール園前とガーデンホテルオリーブの前に植えられました。ナガシマリゾートに足を運ばれる際には、随所に植えられているナガシマリゾートを象徴するオリーブの木にも注目してみてくださいませぬ。



イラスト 市民編集員 櫻井 暁子

イチゴ狩りのあとのイチゴはどうなるの?

ナガシマファームで開催されているイチゴ狩りは、今年度は5月12日で終了しました。しかし、「実っているイチゴを無駄にはできない。農作物を大切にしたい」という思いから、収穫され、おいしく食べていただけるイチゴを選別し、加工してお客さんへ提供しているのだとか。夏はプールでかき氷のシロップに使われたり、また、ジャムにして売店で販売されたり。資源が有効活用されているのですね!

市長がふれる!

本物カ

No.06

緑と夢が 広がる長島



今月の特集は「緑と夢が広がる長島」です。

日本を代表する集客施設であるナガシマリゾート。この春も新しいハイブリッドコースター「白鯨」のオープンで、多くの観光客でにぎわっています。民間調査によると昨年度はなんと1550万人が訪れたそうです。そんな観光で頑張っているナガシマリゾートが、農業に進出。新たな魅力の創出にチャレンジしています。

今回は(株)長島緑化の部長・川原 章さんにお話を伺いました。



川原さん(右)とジュニア・サミットで植樹されたオリーブの木

湾岸長島PAの北側に位置する広大なオリーブ畑。約2000本のオリーブが一面広がっている光景は圧巻で、これだけ集中してオリーブが植えられているところは全国でも類い稀なスケールだそうです。そもそもオリーブ園に取り組んだのは、あるピンチがきっかけでした。もともとホテルの敷地に植えられていた観賞用のオリーブの実が熟して落ち、清掃に困っていたそうです。なんとかならないかと考え、採れた実を試しに搾ってみたところ、大変良質なオリーブオイルになった。

それならばとオリーブ農園を始めたのだそうです。川原さんは「ゴミと思っていたオリーブの実が宝物になった」と笑いながらエピソードを話してくれました。

10月中旬。オリーブの実がなると、ナガシマリゾートの皆さんがひとつひとつ手摘み

で収穫します。こうして採れたオリーブオイルはコンテストでも高い評価を受けていることから、今後は収穫量を増やし、食品だけでなく化粧品や石けんなどの商品にも展開していきたいと川原さんは期待を寄せています。

また、隣接するイチゴ農園には、章姫、紅ほっぺの2種類のイチゴが約3万株あり、1シーズン約2万人の観光客がイチゴ狩りを楽しんでいます。「農業の6次産業化」という言葉を聞いたことがありませんか。農産物の生産(1次産業)×加工(2次産業)×販売(3次産業)を組み合わせることで付加価値を高める取り組みです。ナガシマリゾートの取り組みは、まさにこの農業の6次産業化そのものであり、国も注目しています。これからもどんどんチャレンジしてもらいたいですね。